

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4073400261
法人名	有限会社 眞心
事業所名	グループホーム 五条
所在地 (電話番号)	福岡県太宰府市五条2-15-15 (電話) 092-924-4898
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年11月15日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独) 新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	9 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋吉外科医院、中川内科医院、丸山病院、吉塚歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中にある3階建ての建物である。1階はデイサービス、2・3階はグループホームである。利用者はデイサービスを利用し、その後、グループホームに入居されることが多いため、馴染みながらの関係作りは出来ている。管理者は社会福祉法人の施設に35年以上勤務され、「大型施設にない、小さくてアットホームな雰囲気のある施設をつくりたい」と、8年前に設立された。営利追求を第一とせず、多くの時間、利用者に関わってもらいたいとの思いもあり、介護の中身の充実を図っている。家族からの評価も得られ、今後は大いに期待できる施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価での改善課題の取り組みはなされておらず、職員と一緒に取り組み改善には至っていない。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービスの評価の意義や目的を伝え、職員と一緒に自己評価に参加する取り組みはなされておらず、自己評価を活かしての具体的な改善には至っていない。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成20年2月に運営推進会議が開催されている。参加者は市役所職員、福祉推進委員、民生委員、家族代表、職員等である。会議内容は広報誌の報告、経過報告、利用者の状況報告等を行い、意見として福祉委員よりボランティアによる踊り等の取り組みを行うよう助言等をいただいた。今後、外部評価結果や改善の取り組み等を報告し、地域との交流促進のための話し合いを2ヶ月に1回行うことが望まれる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 毎月1回広報誌を送り利用者の現状報告や健康状態等を報告している。家族等の訪問時、状況報告を行ったり、意見を聞いたりして改善に努めている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日の散歩には近隣の方と挨拶を交わし、町内清掃は利用者と一緒に草取り等積極的に参加している。また地域で2ヶ月に1回夕方から行われる‘歌声喫茶’には歌好きな利用者が参加したり、文化ふれあい館にコーラスの参加を行うことで新聞に記載され、地域との交流が行われている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしい介護とアットホームな毎日」を理念に掲げている。	○	地域密着型サービスの役割を考え、地域の中でその人らしく生活できるよう、地域密着性を盛り込んだ理念を職員と一緒に作り上げていくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で理念に基づいた言葉かけや、態度に注意している。また理念から外れていたらその都度注意している。理念から大きく外れた時は、ユニット会議時に事例検討を行い取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入している。毎日の散歩には近隣の方と挨拶を交わし、町内清掃は利用者と一緒で草取り等積極的に参加をしたりして、地域と交流を行っている。また文化ふれあい館で行われた‘歌声喫茶’には歌好きな利用者が参加し新聞に投稿された。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意識や理解の取り組みが全職員でなされていない。	○	サービス評価の意義や目的を伝え、全職員で自己評価を取り組み、また外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し職員と共に業務の改善に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年2月に運営推進会議が開催されている。参加者は市役所職員、福祉推進委員、民生委員、家族代表、職員等である。会議内容は広報誌の報告、経過報告、利用者の状況報告等を行い、意見として福祉委員よりボランティアによる踊り等の取り組みを行うよう助言等をいただいた。	○	事業所活動状況、利用者状況報告以外に外部評価結果や改善の取り組み等を報告し、地域との交流促進のための話し合いを2ヶ月に1回行うことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政より、地域密着型相談のFAXが入ったり、また、行政へ広報紙を利用者と一緒を持って行き、その時福祉用具のリサイクル品がないか尋ねたり、介護保険課には毎月顔を出しサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の外部研修や内部研修が行われていない為、職員は制度についての理解が出来ていない。	○	管理者のみの理解ではなく、職員も外部研修に出たり、社会福祉協議会等より勉強会に来ていただいたりして、職員の理解を深める取り組みが望まれる。また制度が必要と思われる利用者への、支援体制作りが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや、健康状態、金銭管理、職員の異動等については家族の訪問時に報告を行っている。また、家族が来られない方は毎月広報誌を郵送しており、その中に利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理、職員の異動等を手紙に添えて郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は、家族が記入しやすいように玄関入り口に設置しているが、苦情等は入ったことはない。面会時は家族が相談しやすい雰囲気作りを行っており今のところ問題はない。重要事項説明書に苦情相談窓口を掲載している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職等は必要最小限に抑えているが、異動や離職の場合は新人職員とベテラン職員と組み合わせ一週間の研修期間をおいている。離職によるダメージは今のところない。2、3階の職員の異動は、利用者が馴染みの職員の所に行ける取り組みを行い、利用者のダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表者及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除をしていない。事業所で働く職員は、その能力を発揮して働いており、またシフトの調整が行われているので社会参加や自己実現の機会が与えられている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が市主催の人権研修に参加し、内部研修で伝達を行っている。また市の人権祭りに利用者と一緒に参加したり、職員が地域の中で啓発活動に参加したりしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の外部研修への参加はあるが、職員への研修報告はされてない。	○	全職員が共有できるよう研修内容を報告したり、年間研修計画表を作成し、全職員が研修に参加できる取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者による同業者との交流は行われているが、職員による交流や情報の交換等の取り組みがなされていない。	○	職員が他ホームと交流する機会を作り、サービスの質の向上に取り組むことが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一階のデイサービスや系列の小規模多機能を利用し、事業所に遊びに来て馴染みながらの関係作りを行うようにしている。また家族との相談を十分に行う為、利用者の不安はみられない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物を干す時やたたむ時は手で叩いてしわを伸ばしたり、それを「手アイロン」という昔の言葉をいろいろ教わったり、「ありがとう」との感謝の言葉をで癒されることが多い。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	系列のデイサービスから入居される方がほとんどなので、改めてアセスメントは取っていない。	○	デイサービスでのアセスメントも情報として大切な事であるが、入居時に事業所独自でアセスメントし、デイサービスの情報等を加えていく事で、より沢山の情報が得られる。一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握はケアをしていくうえで大切な事であり、今後の取り組みが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は一部の職員のみで作成されており、その原案がそのまま介護計画となっている。	○	介護計画の作成に当たっては、一部の職員のみで作成するのではなく、本人、家族、職員、関係者等がそれぞれの立場、視点から意見や、アイデアを出し、それを反映させ介護計画を作り上げていく事が望まれる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の作成日が計画のスタート時より後になっていたり、目標の期間がないもの、短期目標の期間が記載されているが、途中の期間がなく、次の期間に移行されているものがあつた。また変化が生じた場合の見直しは行われていなかった。	○	介護計画はサービスがスタートする前に作成し、長期、短期目標の期間を定め記載し、期間に応じ見直しを行い、変化が生じた場合には、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成することが必要である。職員の退職があり、新しい職員が現状に即した介護計画を作成しようと奮戦中である。今後を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列のデイサービスのレクに参加したり、小規模多機能事業所にボランティアが来られた時に出かけ行事に参加したり、コーヒーやお茶を頂いたりして喫茶店の雰囲気を楽しむ多機能性を生かして支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される方には、引き続きかかりつけ医の受診が出来るようにホームの職員が受診の同行をしている。(現在4人)。特にこだわらない方については、提携医療機関への変更をお願いしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化された場合は、わかった段階から家族、主治医と繰り返し話し合いを行い、全員で方針を共有している。現在2名の方の対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの利用者への言葉かけや対応においてプライバシーを損ねるような状況は見られなかった。書類は事務所の鍵のかかる場所へ保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、朝食の時間は一人ひとりのペースに合わせている。日常生活においても一人ひとりの状態や希望に合わせて臨機応変に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じ食事の下準備やテーブル拭き、下膳等職員と一緒にやっている。食事は職員も利用者と同じテーブルにつき必要に応じ声かけし、利用者と同じ食事を楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットが月、水、金と火、木、土に分かれて入浴しているため、入浴日に入浴できなくても他の曜日に入浴が出来る。また機械浴の必要な利用者には機械浴で対応し、ゆっくりと入浴が楽しめるように配慮している。		
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を活かし、食事の準備や後片付け、掃除、水墨画、花壇の水やり、誕生会のケーキ作りの手伝い等楽しく過ごせるよう、役割や楽しみごとを作って工夫をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境に恵まれており、雨の日以外は近所に散歩に出かけ、帰りに系列の事業所に立ち寄り、お茶を頂いたりと日常的に外出をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。夜間は安全の為、20時から7時30分まで施錠している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練が行われている。1回は消防署と一緒に、もう1回は事業所のみで行われている。夜間想定避難訓練も行われ、非常通報装置も設置される。非常時の連絡網もあるが、通報の仕方、連絡方法、避難場所が全職員に徹底されていない。	○	年2回の避難訓練が行われ、自動通報装置、連絡網があるにも関わらず徹底できていない。早急に避難場所を含め、全職員に徹底し非常に冷静に対応できるように繰り返し確認する仕組みづくりが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列事業所に2名の栄養士が勤務しており、交代でバランスの摂れた献立を立てている。一人ひとりの状態に応じ、硬さや刻み方の調整をしている。食事摂取量は全員、水分摂取量は必要な人のみ、現在は2ユニット合わせ11名の記録をし確認をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は適度な採光で、食材を刻む音、食事の音などにおい等がして、生活感が感じられる。また娯楽室があり、ゆっくりと過ごせる空間がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの居室には、タンス、椅子、仏壇、家族の写真、お気に入りのスターの写真等が思いおもいに持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせる配慮がされている。</p>		